

国語 第4学年 忘れもの / ぼくは川

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、詩を音読し、言葉から想像したことと感想を対応させる。作品に書かれていない状況を先に決めず、児童が本文の言葉を挙げて説明する。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名「忘れもの / ぼくは川」 教材名「忘れもの / ぼくは川」

2 単元の目標

詩の内容のまとまりを意識して音読することができる。詩を読んで理解したことを基に、感想や考えをもつことができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①詩の内容のまとまりを意識して音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、詩を読んで理解したことを基に、感想や考えをもっている。（C(1)オ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

詩を音読し、言葉から想像したことと感想を対応させる。作品に書かれていない状況を先に決めず、児童が本文の言葉を挙げて説明する。学習指導要領のC(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)クを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

教科書の本文を手元で読み、言葉の箇所・そこから想像したこと・自分の感想を別々の欄に書く。教師は作品の情景を先に説明せず、児童が選んだ語に戻して想像を確かめる。おおむね満足できる状況は、詩を読んで理解したことを基に、感想や考えをもっているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○詩を声に出して読み言葉の響きを確認する。想像の根拠になる語を選ぶ。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時（本時）：○感想とその理由を伝え合う。想像したことを音読で表す。 評価：思①（発言・学習記録）

6 本時の指導（2／2）

（1）本時の目標

詩を読んで理解したことを基に、感想や考えをもつことができる。

（２）学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「どの言葉から、どんな様子や気持ちを想像しましたか」

【めあて】詩を音読し、言葉から想像したことと感想を対応させる。

予想される児童の反応：・同じ行でも区切りで印象が変わった。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「どの言葉から、どんな様子や気持ちを想像しましたか」

感想とその理由を伝え合う。想像したことを音読で表す。

選んだ言葉の箇所、想像したこと、感想と音読の工夫を示すメモ。

自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。

予想される児童の反応：・同じ行でも区切りで印象が変わった。

・友達とは自分と違う言葉を選んだ。

・初めは気付かなかった言葉が感想の理由になった。

指導上の留意点：教科書の本文を手元で読み、言葉の箇所・そこから想像したこと・自分の感想を別々の欄に書く。教師は作品の情景を先に説明せず、児童が選んだ語に戻して想像を確かめる。

想定するつまづき：題名だけから筋を作る、詩の内容と自分の経験を混ぜて根拠を説明できない。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 詩を読んで理解したことを基に、感想や考えをもっている。（発言と学習記録）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・初めは気付かなかった言葉が感想の理由になった。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「どの言葉から、どんな様子や気持ちを想像しましたか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

